

おうちの図工室・美術室

〇〇な色ギリギリライン 検討会

岡山県立玉島高等学校 1 年生（1 学期）妹尾佑介先生の実践について

検討会参加者

○大学

清田哲男 教授（岡山大学大学院）

○小中高教員(五十音順)

木村仁先生（滋賀大学教育学部附属小） 妹尾佑介 先生（岡山県立玉島高）

田窪真樹先生（大阪市立天王寺中） 武田聡一郎先生（岡山大学教育学部附属中）

松浦藍 先生（岡山市立福浜中）

授業のブラッシュアップについて

田窪：色に焦点するために、紙質、塗り方、絵の具量や水分量などの要素も含めることもありうるかなと思います。他にも、もっと色々な設定をすることでどうなるのかが気になります。でっかい画用紙や画用紙の形を丸にすると、また違う展開になりそうです。

木村：小学校だったら、と考えていました。好きな色につながることでたくさんの「好き」が見つかりそうですね。色水ジュースを作って、窓辺に並べる時にも「この色はここにおく?」「いやこっちのほうがいい」という話し合いもありかもしれません。高校生は、こんな細かい色の感じ取りをしているんだな、という驚きもありました。指で塗るのか、筆で塗るのか、という可能性を広げることもできそうです。

妹尾：ギリギリというテーマは、こだわりであり、高校生だからできることかもしれませんね。教師の発見としては、白画用紙に白を塗っている生徒の様子ですね。白を塗るだけであんなに印象が変化するとは思いませんでした。

田窪：後半の「 」のギリギリラインを考えるとところが面白いですね。髪の色を変えて先生に指導されるラインを探るというテーマも、高校生らしくておもしろいなと思いました。グラデーションをするには、技術・知識面も必要になりますね。

題材の前後の流れについて

松浦：ギリギリラインの前に、新色発見とかいろいろ説明してくださいなどの題材の経験があるといいなと思いました。

妹尾：題材につながりができると生徒たちの中で自然と「これしてみたらいいんじゃないか」と考えることになりそうですね。この題材のあとに「美の発見レポート」を出すとまた違うレポートになりそうです。生活の中に根差したものにできればと思っています。

おうちの図工室、美術室

授業実践のビデオを見ての意見

清田：教師の言葉数が多くて、指示に聞こえることがあるのが気になりました。子どもが自分で「問い」になるように、最小限の言葉で発言し子ども自身で「問い」を表現することになると思います。

妹尾：色彩と形の兼ね合いについても色々な検討ができそうですね。

清田：色ができると形ができます。子どもが活動の中で最初に選ぶのも、絵の具や色鉛筆の「色」です。色を塗って、技法があって、主題があって、主題と自分との関係などになっていきます。そう考えると絵の具でもいいのか。それから RGB で考えるとどうなるのかも面白いですね。CMYK で見ることも子どもが見る可能性は、RGB の方が多いと思います。そう考えると、いろいろな授業展開の可能性が広がります。原色のチューブの数についてですが、1色でも、水の量で異なります。自分で扱え、色をコントロールできる絵の具チューブの色はいくつなのかも考えるとよいと思います。たくさん工夫させようとして3色混ぜることがありますが、でもそれでは濁るんですよね。それをどうするかを考えると、さらに授業が深まったり、可能性が広がったりするように思いました。

検討会での話したいこと

松浦：この実践の中での課題は何でしょうか。

妹尾：ギリギリラインをもっと自由度を高く設定すればよかったと思っています。もっと声掛けを減らして、見守っておけばよかったな。改めてビデオで見返すと、ほっとしてみたらどうなるのかを見たかったですね。中学校までに色々やってきているという前提でしているので、もっと任せてあげようと思います。

あとは、子ども自身が自分で探っていく過程が資料としてあると子どもの様子がより伝わって、面白かったのかもしれない。

清田：たしかに、テーマだけ示して、時間を計ってやるだけでもよかったかなと思います。こうした課題は、各先生でこうしたいという思いがあるからこそ生まれるのですね。題材のブラッシュアップもありますけど、参加されている先生方と題材との関わり方のよりよい展開になるのではないかと、という提案が重要です。

社会構造の中で生まれてくるものが「創造性」です。個人の力量を上げるのではなく、人と人との関わり方が変わっていくことが大切です。自分がやってみると、よりよいをみんなで考える事がいいな、と思います。「自分だったらこうする」よりも、「よりよいをみんなで考えよう」がいいのかもしれないですね。

例えば、今回の授業を見て、どこまで教師の発言を抑えられるのかを考えてもいいかなと思いました。教師が具体的な質問を生徒にするのではなくて「これ何？」って尋ねるだけで、色々教えてくれそうです。そうした関わり方を、みんなで考える会になったらいいですね。